建築人

8

2013

大阪ホンマもん

記憶の建築

松隈　洋

東京日仏学院 1951 年
日仏交流史を刻む空間の今

激しく変貌を遂げている東京にあって、それでも、いくつかの戦後の近代建築が当時の面影を残しながら、現役の姿のまま大切に使われている。今回紹介したいのは、そんな建物の一つであり、持続的に文化活動を続けてきた公共的な施設だからこそ、今もなお清新な雰囲気を失っていない貴重な建築遺産でもある東京日仏学院である。

この建物が竣工したのは一九五一年九月、敗戦後の占領下に置かれていた日本が悲願の独立を果たした直後のことである。前年の一九五〇年に戦前から続いていた建築資材統制がすべて解除されて、ようやく鉄筋コンクリートや鉄骨を用いた本格的な近代建築の建設が認められたばかりだった。

設計を手がけたのは、戦前から活動を続けていた坂倉準三である。一九三〇年代にル・コルビュジエのパリのアトリエに学び、一九三六年のパリ万国博覧会日本館で華やかな世界的なデビューを飾った坂倉にしても、戦争による十五年というブランクを挟んで戦後の再スタートとなる建築にようやく出会えたことになる。しかも、同じ年の十月に続いて竣工する神奈川県立近代美術館とは異なり、この東京日仏会館は、坂倉が手がける機会を得た最初の鉄筋コンクリート造の建物である。さらに、この施設は、日本とフランスの文化交流を図ることを目的に一九二四年に設立された財団法人日仏会館が、戦後に入り、語学学校として申請して建設が認められたという歴史的経緯もあった。そうしたいくつかの意味からも、フランスと縁の深い坂倉にとって、さぞかし心躍るプロジェクトだったに違いない。

建設されたのは、中央線の飯田橋駅近くの桜並木の美しい江戸城の外濠を挟んで法政大学や逓信病院と対面に位置する屋敷町の小高い丘の中腹だった。今は多くのビルに取り囲まれてしまったが、竣工時の建築雑誌には、緑に囲まれた木造住宅が点在する開けた空地に突如として出現したル・コルビュジエ風の瀟洒な近代建築がまぶしいくらいの白さを湛えて写っている。

けれども厳しい予算と限られた材料で建設が進んだのだろう。開館当初は最小限の姿からスタートする。教室四室と図書館や集会室、教員室と院長室などを二層にまとめ、三階には、フランス人の院長が暮らす住戸がコンパクトに納められた主屋と、玄関ホールと事務室、トイレなどからなる付属棟、そして、おむすび型の階段室棟という構成で、三階の住戸部分こそスチール製だが、一、二階は木製の窓になっていた。そんな中、坂倉はル・コルビュジエに学んだ方法を最大限試みようとしている。中でも、上部がロート状の独立柱で支えられた梁のないフラットな床板が重なる主屋と二重のらせん階段を内包した階段室棟は、今見ても圧倒的な存在感をもって迫ってくる。おそらく会心の作だったのだろう。

東側から見る建物外観

増築部分の１階ロビー

この建築が竣工した直後の一九五一年十一月、坂倉は、第一回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展の建築審査員として武基雄と共に南米ブラジルへ招かれる。そして、現地から東京の事務所の所員たちに書き送った十一月十日付の手紙の末尾には、ミースやフィリップ・ジョンソンなど、他の建築家たちが展示壁面を分け合っている中で、「僕は日仏センターと鎌倉とで一つの壁面を独占した」と記していた。そして、東京日仏学院と神奈川県立近代美術館は、戦後に創刊された『建築文化』の一九五一年十一月号と十二月号の表紙を相次いで飾ることになる。しかし、そんな自信にあふれたブラジル滞在中の坂倉が予想だにしない出来事が遠い日本では起きてしまう。

それは、東京大学教授の岸田日出刀による批評文の掲載だった。雑誌の誌面から受けた印象批評ではあったものの、岸田は、この建物は、「浅薄で騒々しく、胸わるくなる新しがり」の「アプレゲールの建築」であると酷評したのである（『建築文化』一九五二年一月号）。しかも、続く次号でも、神奈川県立近代美術館を取り上げ、今度は現地にも足を運んで、その細部の意匠について厳しい批評を寄せていく。岸田に他意はなかったのかもしれない。しかし、この出来事の影響なのか、これ以降、東京日仏学院は、坂倉の仕事の中では居場所を失って振り返られることもなくなってしまう。

一方、会館の運営は順調に展開されていったのだろう。竣工から十年後の一九六一年には新館が増築されて床面積は倍増し、さらに坂倉亡き後の二〇〇〇年には、マニュエル・タルディッツ氏の設計によって、耐震補強を含む改修工事が施された。

こうして、気がつけば、竣工から六〇年以上も現役で使われてきたことになる。当然ながら、日仏文化の交流拠点としてここを訪れたフランス人の顔ぶれも豪華だ。アンドレ・マルロー、ロラン・バルト、ミシェル・フーコー、クロード・レヴィ＝ストロースらの名前がずらりと並び、すでにそれ自体が戦後の文化交流史を体現する。また、そこに流れた時間の蓄積と通った人々の愛着も加わったのだろう。岸田の酷評は相対化されて、むしろ当時の建築に共通して感じられる透明な空気感が、その小ぶりなたたずまいと相まって、より好ましいものとして現前している。飯田橋周辺では超高層ビルの建設ラッシュが続き、環境は激変してしまった。そんな中、ここだけはゆったりとした静かな時間が流れている。時代を写す歴史的な場所として、遠くフランスへと誘われる空間として、この建築が変わらずにそこにあり続けてほしいと思う。

松隈　洋

京都工芸繊維大学教授。博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

連載 建築の射程 第5回

京都工芸繊維大学大学院の教育プログラムの一環で、モダニズム黎明期のある住宅の修復作業が進められています。設計者・本野精吾が生み出した京都モダニズムともいうべきデザインの特徴と、近代建築の保存修復にはたす大学の役割について、笠原一人さんに語っていただきました。

栗原邸にみる本野精吾のモダニズム

笠原　一人

京都工芸繊維大学大学院助教

1970年神戸市生まれ。1998年京都工芸繊維大学大学院博士課程修了。2010-11年オランダ・デルフト工科大学客員研究員。近代建築史・建築保存論専攻。編著に『記憶表現論』（昭和堂）、共著に『近代建築史』（昭和堂）、『関西のモダニズム建築20選』（淡交社）、『村野藤吾－建築とインテリア－』（アーキメディア）、『村野藤吾のファサードデザイン』（国書刊行会）ほか。現在、『建築ジャーナル』誌にオランダを中心としたリノベーションについての論考「建築保存のポリエードル」を連載中。

京都市山科区の御陵に、琵琶湖疏水を背にして栗原邸というコンクリートを剥き出しにした住宅が建っている。この建物は、染色家で京都高等工芸学校（現・京都工芸繊維大学）校長であった鶴巻鶴一の邸宅として一九二九年に建設されたもので、設計者は同校教授であった建築家・本野精吾（一八八二―一九四四）。当時最先端の特殊なコンクリートブロックで建てられた、合理性を追及したモダニズム建築である。

建物は老朽化により傷んでいたが、二〇一一年度より京都工芸繊維大学大学院の教育プログラムの一環で、学生とともに修復作業を行っている。修復はまだ途中段階であるが、本年五月末と六月初頭の土日の四日間、現在の所有者である栗原眞純氏のご協力のもと、栗原邸保存研究会の主催により一般公開を行ったところ、合計八一〇人もの来場者があった。その不思議な風貌の建物の魅力と建築史的意味は何か。本稿では、本野の建築家としての足跡を追いながら、栗原邸の歴史的価値や保存のあり方について考えたい。

本野精吾は一八八二年東京に生まれた。父親の盛享（もりみち）は読売新聞の創業者であり、兄の一郎は外務大臣を務めたという一家である。東京帝国大学建築学科卒業後、三菱合資会社地所部（現・三菱地所）に勤務していたが、当時京都高等工芸学校教授だった建築家武田五一の招きによって、一九〇八年同校の教授に就任する。以来本野は、同校の教育をリードしながら建築家やデザイナーとして活躍した。

本野は一九〇九年から一一年にかけて、ドイツに留学している。その際P．ベーレンスのAEGタービン工場を見学し衝撃を受けるなど、モダニズム黎明期のドイツの影響を受けた。帰国後、本野が設計した最初の建築作品、西陣織物館（現・京都市考古資料館／一九一四年／京都市登録文化財）は、鉄筋コンクリート造で壁には凹凸や装飾がなくコーナーストーンも省かれており、当時のベーレンスの作品に似ている。同じ年に竣工したのが辰野金吾設計による東京駅であったことを考えれば、この建物が日本でいかに早くモダニズムへの第一歩を踏み出した作品であったかが分かるだろう。

その後、一九二四年に竣工した本野邸（自邸／DOCOMOMO Japan 一〇〇選）は、中村鎮（まもる）によって発明された特殊なコンクリートブロック（通称：鎮ブロック）を用いた「中村式鉄筋コンクリート建築」によって建設されている【図1】。この工法を用いた建物はすでに東京で建てられていたが、一九二三年の関東大震災で一棟も倒壊せず、その耐震性や耐火性、合理性に注目した本野が、自邸を建設するに際して用いたものである。だが、本野は鎮ブロックを従来の形のまま用いたのではなく、いくつかの工夫や改善を行っていることが重要である。

まず、ここではコンクリートブロックを剥き出しにして使っている。それ以前にこの工法を使った建物では、壁面をモルタルなどで仕上げ、ブロックを隠していたが、本野は剥き出しにした。これは建物の構造体に化粧を施すことなく、そのまま見せるべきだとするモダニズムの理念に適っている。我国において、コンクリートを剥き出しにしたおそらく最初の建物だろう（註1）。

図1　本野邸（1924年）撮影：笠原一人

また建物全体をコンパクトにし、室内では食堂と居間の間仕切りを除去して機能性を高め、天井高も低くして全体の動線を最短にしている。ブロックの空洞を用いて暖気を建物全体に廻らせる試みも行っている。窓の上部や建物の最上部に大きな軒や庇があることも興味深い。ヨーロッパのモダニズム建築には軒や庇はないが、日差しが強く雨が多い日本の風土や気候を考慮して、本野があえて取り付けたものである。

このように本野邸は、当時日本で導入され始めたモダニズムの理念と方法を徹底し、日本で最初に完成形に導くと同時に、独自性をも追求した作品だと言える。

この本野邸と同じ工法を用いて一九二九年に竣工したのが、栗原邸（旧鶴巻邸／DOCOMOMO Japan 一五〇選）である【図2・3】。ここでは本野邸同様、鎮ブロックを用いて合理性を追求し、軒や庇を付加して日本の気候や風土に対応したものとなっている。しかし、本野邸がモダニズムの理念と方法を徹底したのに対して、栗原邸はいくつかの点で異なる。

栗原邸は、正面にセセッション風の半円形の印象的なポーチを持ち、建物はそれを中心にほぼ線対称をなすという、やや古風な構成を持つ。また大きな邸宅であり、天井高も高く、間仕切りを除去して動線を最短にするほどの機能性は追求されていない。しかも化粧ブロックを上から貼りつけていると見られ、外壁のブロックの表情が本野邸よりも美しく、玄関ポーチの打ち放しコンクリートはびしゃん叩きで丁寧に仕上げられている。室内にはウィーン工房やアールデコ風の装飾や電燈、家具が配され、施主であった鶴巻鶴一による立派なろうけつ染めの襖絵もある。

つまり栗原邸は、本野邸のようにモダニズムを徹底したというよりは、コンクリートブロックを用いた豊かで美しい表現の追求に関心が向けられている。本野邸で一つの完成を見た鎮ブロックの、より成熟した姿を追求したのが栗原邸だったと言えるだろう。

その後一九三〇年には、京都高等工芸学校本館（現・京都工芸繊維大学三号館／国の登録有形文化財）が竣工している。これら現存する本野の四つの建築作品を見ると、合理性を追求しながらも、そのやや無骨で不思議なデザインは、通常のモダニズムのイメージでは捉え難い。それはモダニズムの確立に向けて試行錯誤を続けた、モダニズムの先駆者ならではのものであろう。

本野が伝統と学術の街、京都を拠点にしたことも、その不思議な姿の原因であったと思われる。京都だからこそ、大衆におもねることなく理論を突き詰め、いち早く伝統を打ち破る新しい理念や技術、表現を追求したのではないか。それは東京とも大阪とも異なる、京都ならではのモダニズムのあり方だったと言えるだろう。

さて栗原邸は、竣工後長らくその存在が忘れられていたが、二〇〇〇年に現存していることが明らかになった。ただ長年の屋上からの雨漏りにより傷みが激しく、所有者が修復することも難しく、放置されていた。その後、筆者らが中心となって三度、建物の一般公開を行い（註2）、二〇一〇年には京都工芸繊維大学美術工芸資料館で初の本野精吾展を開催するなどして（註3）、栗原邸の社会的関心や文化財的価値を高めることに努めた。そして二〇一一年度から、京都工芸繊維大学大学院の教育プログラム「建築リソースマネジメント」（二〇一三年日本建築学会教育賞受賞）に乗せて、学生とともに屋上防水や室内の修復工事を行うことができた。現在までに屋上防水と室内三部屋の修復が終了している【図4】。

学生は、屋上の古いモルタルの除去や新しい下地塗り、室内の傷んだ漆喰の除去などを手伝いながら、修復の方法を学んだ。興味深かったのは、竣工時と同じように修復を行った室内の漆喰のコンクリートとの相性が悪く、乾燥するのに通常の何倍もの時間がかかったことである。おそらく本野も、当時、日本の伝統的な技術とヨーロッパ由来の近代的な技術を接続する際の、このような難しさを感じたことだろう。

近年、近代建築の保存や活用が社会的な問題になることが多い。我国の近代建築の保護に対する極めて不十分な法律や制度、時代錯誤的な都市の高密度化の奨励や高層ビルの建設、近代化遺産に対する無理解などが手伝って、近代建築が次々と解体の危機に追い込まれている。そうした中で大学は、従来、その保存の理念や知識を提供するだけで、実務に関与することはなかったと言える。しかし栗原邸の修復は、大学が積極的に近代建築の修復作業に取り組める可能性を示している。今後、全国の大学でこうした取り組みがなされるようになれば、と期待している。

（註1）従来、コンクリートを剥き出しにした建築作品は、一九二四年竣工のA．レーモンドの自邸が最初だとされてきたが、近年、図面資料から、レーモンド邸は一九二六年の竣工であると見られることが分かった。したがって一九二四年竣工の本野邸は、打ち放しコンクリートではないが、コンクリートを剥き出しにした日本で最初のものと見られる。

（註2）二〇〇五年、二〇〇六年、二〇〇八年に栗原邸の一般公開を行った。

（註3）筆者が企画および編集を担当した図録、『建築家本野精吾展―モダンデザインの先駆者―』、京都工芸繊維大学美術工芸資料館、二〇一〇年、を参照のこと。

図2　栗原邸（旧鶴巻邸／1929年）撮影：笠原一人

図3　栗原邸（旧鶴巻邸／1929年）撮影：笠原一人

図4　栗原邸の修復作業　撮影：笠原一人

第６回
建築人賞

主催：公益社団法人 大阪府建築士会

公益社団法人大阪府建築士会では
本誌「建築人」の Gallery に掲載された建築作品を対象に
社会性、芸術性、時代性を考慮して、顕彰、公表することにより
建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的として
建築人賞を実施しています。

■ 審査委員長　古谷 誠章（早稲田大学教授）

1955年　東京都生まれ
1978年　早稲田大学理工学部建築学科卒
1980年　早稲田大学大学院修了
1986～1987年　文化庁芸術家在外研修員として
　　マリオ・ボッタ事務所在籍
1994年～　八木佐千子とスタジオナスカ（現NASCA）
　　共同設立
1994年～　早稲田大学理工学部助教授
1997年～　早稲田大学教授
本年度より建築人審査委員長

■ 表彰（設計者に対して）
建築人賞　　（賞状と記念盾）
建築人奨励賞（賞状）
※建築主・施工者には感謝状授与

■ 第６回 対象作品
「建築人」2013 年１月号から 2013 年 12 月号まで
Gallery に掲載された建築作品
※建築種別、建築地を問わない。但し、竣工検査済証を受けたもの

■ 審査方法（２段階審査）
一次審査　建築人誌面より選定
二次審査　二次審査資料により選定（現地視察含む）

■ 受賞発表
建築人 2014 年７月号誌面（予定）

■ 問い合わせ
公益社団法人大阪府建築士会「建築人賞」係
TEL 06-6947-1961　　FAX 06-6943-7103

建築人賞 記念盾 「未来へ！」
グラスアーティスト 三浦啓子作

『建築人』Gallery 掲載作品 募集中
2013

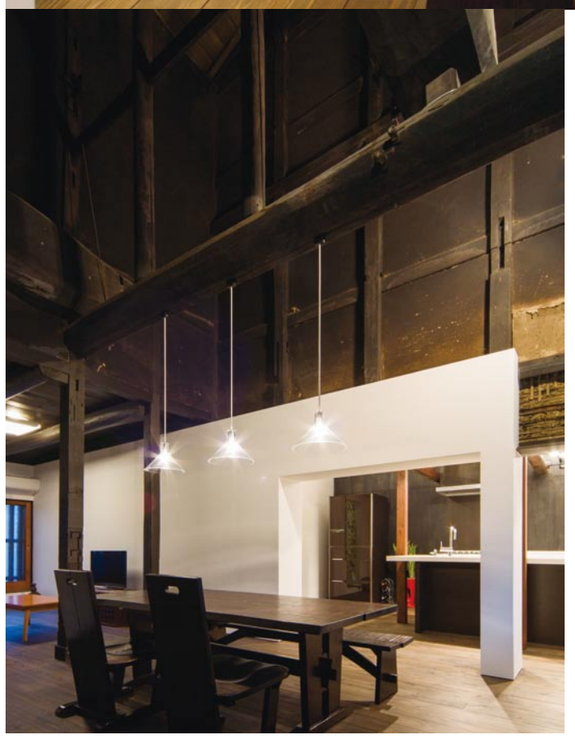
会報誌『建築人』では、Gallery に 掲載する作品を募集しています。

【掲載料】
カラー　２ページ　２０万円
カラー　１ページ　１０万円
モノクロ ２ページ　１０万円
モノクロ １ページ　　５万円
※モノクロページは住宅に限ります。

詳しくは、公益社団法人大阪府建築士会『建築人』Gallery 建築作品掲載係まで。

當麻寺の家

設計：マニエラ建築設計事務所
施工：吉川組



本案件は古都・奈良にある當麻寺に向かう情緒あふれる道に面する築180 年の歴史を持つ古民家の再生である。
計画の際、重きをおいたのは、古民家の趣きを残しつつ、現代の空間を含有し、調和させる事である。歴史が育んできた情緒や現代では難しい大きな丸太梁によるダイナミックな小屋組構成を残しつつ、復元し、現代の機能性・デザインを付加し、再生していくことである。
過去と現代を融合させる為に歴史に思いを巡らせ、残すべきものと意思あるものを理解し、これからも住み手と共に残すべきもの、新たな息吹が生まれるものとを選択し、再生されていく事だろう。

所 在 地：奈良県葛城市
用　　途：専用住宅
竣　　工：2013.4
構造設計：木構造建築研究所　田原
構造規模：木造　２階建
敷地面積：925.620㎡
建築面積：384.568㎡
延床面積：331.088㎡
写　　真：平野和司

INFORMATION

このINFORMATIONページの内容は本会ホームページのトップページにも同時掲載しています。本会ホームページからも予約することができます。詳細は下記の本会ホームページへアクセスしてください。（建築情報委員会）

【大阪府建築士会ホームページ】 http://www.aba-osakafu.or.jp/

Sponsorship
建築士会からのお知らせ

会員の皆様へ「応急危険度判定士」資格取得のお願い

本会では、大地震発生時に市民の安全を確保するため、全会員の皆様を対象として「被災建築物応急危険度判定士」の資格取得キャンペーンを実施しております。
つきましては、判定士の資格をお持ちでない会員の方は、下記の判定士養成講習会を受講され、判定士登録をしていただきますようお願いいたします。

被災建築物の応急危険度判定養成講習会
8/21・10/23・12/18・2/19
CPD4 単位

日程　①8月21日（水）　②10月23日（水）
　　③12月18日（水）　④2月19日（水）
時間　13:30～17:00
会場　大阪府建築健保会館6階ホール
定員　各150名（定員になり次第締切）
受講資格　大阪府内在住または在勤する一級建築士、二級建築士、木造建築士及び建築基準適合判定資格者。
受講料　無料
テキスト代　1,500円（税込み）
※応急危険度判定士登録時に必要な書類
　①建築士免許証の写し（1枚）。
　②顔写真（カラー2枚。6ヶ月以内。無帽・無背景・正面上半身。縦4cm×横3cm）。
申込先・問合先
　一般財団法人大阪建築防災センター耐震部
　Tel.06-6942-0190

平成25年度　建築士定期講習
11/30　CPD6単位

建築士事務所に所属の一級・二級・木造建築士で、平成22年度に建築士定期講習を受講された方が対象です。尚、平成22年度以前に建築士試験に合格し、本講習を未受講の方は、平成25年度中に必ず受講してください。
■日時・会場
　11/30（土）　9:40～17:30
　たかつガーデン
　定員200名、会場コード5C-53
■申込締切日
　10/31（木）申込書必着
　※大阪での申込受付は郵送のみです。必ず簡易書留郵便にてご送付ください。
　※定員に達し次第、受付を終了します。
■受講料　12,900円（消費税含）
■申込書配布・受付場所
　大阪府建築士会事務局
　大阪府建築士事務所協会事務局

二級建築士／設計製図 受験対策講習会
直前対策コース　8/25～9/8
模擬テストⅠ・Ⅱ　9/1、9/8

有能で意識の高い建築士の養成を目標に、実務にも直結した指導を安価な受講料で行います。
■直前対策コース（全3回、模擬テスト2回含む）
　日程　8月25日（日）、9月1日（日）、9月8日（日）
　時間　9:30～16:30
　会場　大阪府建築健保会館5階
　定員　25名（申込先着順）
　受講料　建築士会会員（準会員）35,000円、一般40,000円
■模擬テストⅠ・Ⅱ
　日程　Ⅰ:9月1日（日）、Ⅱ:9月8日（日）
　時間　9:30～16:30
　会場　大阪府建築健保会館5階
　定員　【各回】25名（申込先着順）
　受講料　【各回】建築士会会員（準会員）13,000円、一般15,000円

平成25年度 既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法講習会》
9/25・10/30・11/27
CPD5単位

平成24年に診断マニュアルの大幅な改訂があり、一般診断法による最新の診断技術を取得していただく講習会です。
日程　①9月25日（水）　②10月30日（水）
　　③11月27日（水）
時間　11:00～16:30
会場　大阪府建築健保会館内
定員　各150名（定員になり次第締切）
受講料　会員5,000円　会員外9,000円
テキスト代　7,000円（2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法）

平成25年度 既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算講習会》
8/27・12/17
CPD6単位

大阪府マニュアルに基づいて限界耐力計算による診断技術を習得していただく講習会です。
日程　①8月27日（火）　②12月17日（火）
時間　11:00～16:30
会場　大阪府建築健保会館内
定員　各150名（定員になり次第締切）
受講料　会員6,000円　会員外8,000円
テキスト代　3,500円（大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル）

一級建築士／設計製図 受験対策講習会
課題解説＋エスキースコース　8/24
模擬テストⅠ～Ⅱ　9/14、9/21、9/28

有能で意識の高い建築士の養成を目標に、実務にも直結した指導を安価な受講料で行います。
■課題解説＋エスキースコース
　日程　8月24日（土）
　時間　課題解説9:00～12:00、
　　エスキース13:00～17:00
　会場　大阪府建築健保会館5階
　定員　40名（申込先着順）
　受講料　建築士会会員10,000円、一般12,000円
■模擬テストⅠ～Ⅲ
　日程　Ⅰ:9月14日（土）、Ⅱ:9月21日（土）、Ⅲ:9月28日（土）
　時間　製図実習9:00～15:30、図面講評16:30～18:30
　会場　大阪府建築健保会館5階
　定員　【各回】40名（申込先着順）
　受講料　【各回】建築士会会員12,000円、一般15,000円
※複数コースを同時にお申込みの場合は割引があります。

建築士法にもとづく「建築技術講習会」
平成25年度 第3回 今さら聞けない設備図の基本①
9/20　CPD3単位

建築技術者の方を対象に、模範設備図を使って各設備毎に凡例や図面構成及内容の要点を説明し、設備図面が読めるようになることを目標とします。また簡単な設備の設計手法や最近の設備技術の動向も解説します。
日時　9月20日（金）　13:30～16:15
会場　大阪府建築健保会館6階
内容　・設備図の読み方（給排水衛生設備）
　　・設備図の読み方（空調換気設備）
定員　150名（定員に達し次第締切）
受講料　建築士会会員3,000円、一般5,000円（テキスト代含）

建築士法にもとづく「臨時建築技術講習会」
戸建て住宅の不同沈下を減らすために
9/27　CPD3単位

小規模建築物における不同沈下事故は今も多く、当事者間で解決できない場合は訴訟となり、損害賠償請求金額も高額です。
その原因は土質工学の根底に至るような難しいものではなく、見方・考え方を知れば防止できるものです。
本講習会では戸建て住宅が建築される地盤の見方・考え方について実例を交えて易しく解説します。
日時　9月27日（金）　13:25～16:30
会場　大阪府建築健保会館6階
内容　・不同沈下はなぜ起こる？
　　・不同沈下防止のための要点
　　・不同沈下防止のための工法とその特徴
定員　100名（定員に達し次第締切）
受講料　建築士会会員3,000円、一般5,000円（テキスト代含）

木の学校Ⅶ「大阪木材仲買会館見学＋現代に息づく伝統工法講演」
木の魅力を建築に活かせるよう勉強する企画
8/24　CPD第1部～第3部各1単位

今年で7年目を迎える木の学校企画は、最新の木造建築の見学と伝統建築の技法についての講演という盛りだくさんの企画です。
日時　8月24日（土）　14:00～17:00
会場　大阪木材仲買会館
　　大阪市西区南堀江4-18-10
内容
第1部:国内初の木造耐火オフィスビルである大阪木材仲買会館を竹中工務店の担当者にも来ていただいて見学します。
第2部:社寺建築に精通された西澤工務店の西澤政男社長に伝統建築の技法について講演していただきます。
第3部:大阪木材青年経営者協議会メンバーとグループディスカッションを行います。
※終了後、懇親会を予定しています。
定員　55名（定員に達し次第締切、第3部のみ定員25名）
受講料　建築士会会員1,500円
　　一般2,000円（資料代含）
※第1部、第2部、第3部、懇親会のどれに申込みをするかご記入ください（第1部～第3部すべて申込みの場合も受講料は同じです）。

第41回 賛助会員分科会セミナー
エネルギーをつかう家からつくる家へ＆コンクリートの美観再生＋光触媒の活用
9/19　CPD2単位

自邸でエネルギーをつくる家庭用コージェネレーションシステム・豊富でクリーンな天然ガスの将来性について、また、打ち放しコンクリートを新築時のような姿に再生する塗装システム・美観を長期維持する光触媒コーティングについてご提案します。
日時　9月19日（木）　講義18:00～19:30
質問コーナー&ミニ懇親会　19:30～20:30
セミナー概要
　1）家庭用コージェネレーションシステムの概要・事例紹介、豊富でクリーンな天然ガスの将来性について
　講師：大阪ガス㈱大阪リビング営業部
　　今西　毅・合田 敏明
　2）打ち放しコンクリートを新設時のように再生・中性化防止＋光触媒の効果・活用法について
　講師：㈱ピアレックス・テクノロジーズ
　　取締役営業部長　広瀬　直輝
会場　㈱内田洋行　会議室
　（大阪ユビキタス協創広場CANVAS）
　大阪市中央区和泉町2-2-2
参加費　（ドリンク・フード付）会員1,500円
　　会員外2,000円
定員　100名（申込み先着順）

第11回神戸ウオーカー
東播のハイカラ建築を巡る
9/28　CPD6単位

今回は神戸の西、東播の中心地、加古川近辺をふるさと案内人の方のご案内で巡ります。煉瓦造の工場や異人館の様な建物、1935年築の元加古川町公会堂等、そして国宝鶴林寺にも足を伸ばしてみたいと企画しました。暑さ対策を万全にして皆様お越し下さい。
日時　9月28日（土）　10:00～17:00（予定）
集合　10:00　JR加古川駅
参加費　3,000円（昼食代・資料代入場料含む）
定員　30名（先着順）

事務局からのお知らせ

事務局夏季休暇のお知らせ
8月14日（水）～16日（金）は事務局業務を休ませていただきます。

本会の催し参加申込方法
本会ホームページのWEB申込サイトからお申し込み下さい。FAX・郵送の場合は、事務局にお問い合わせ下さい。なお、建築士定期講習会は郵送のみの受付となっています。
問合・申込
大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
　　高田屋大手前ビル5階
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
　　メール info@aba-osakafu.or.jp
　HP http://www.aba-osakafu.or.jp/

Administration
行政からのお知らせ

平成25年度大阪府住宅省エネルギー施工技術講習会の開催
「国土交通省補助事業　平成25年度 住宅市場技術基盤強化推進事業」
8/1～8/29

住宅の断熱設計から断熱施工までのポイントをテキスト・DVD・実物大カットモデルを活用し分かりやすく解説します。
日程　8/1、8/7、8/8、8/22、8/29のいずれか1日
時間　9:15～16:30
会場　大阪木材相互市場
　　大阪市港区福崎1-2-1
※弁天町駅より徒歩15分（送迎バスあり）
費用　1,000円（受講料）＋別途修了証発行手数料
主催・問合　大阪府地域産材活用フォーラム
事務局　大阪住宅センター（06-6253-0073）
　　小角（こすみ）・寺尾
詳細はHP（http://www.shoene.org/）もしくは上記問合せ先へお問合せください。

平成25年度台風期前宅地災害防止活動実施について（大阪府）

平成25年度「宅地災害防止計画」に基づき、台風期に備え宅地造成等によって生じるがけ崩れや土砂の流出に伴う宅地の災害発生を未然に防止し、災害のない安全なまちづくりに寄与することを目的とし、防災活動及び広報活動を実施します。
期間　平成25年8月1日（木）から
　　平成25年8月30日（金）まで
問合　大阪府住宅まちづくり部建築指導室
　　審査指導課指導調整グループ
　　Tel06-6210-9720(直通)

平成25年度大阪広域水道企業団職員採用選考（職務経験者／建築）

受付期間　平成25年8月5日（月）～
　　平成25年8月26日（月）
申込方法　持参又は郵送（消印有効）
第1次選考日　平成25年10月6日（日）
選考の詳細は、下記のHPをご覧ください。
http://www.wsa-osaka.jp/saiyo/h25kenchiku/H25shoku_ken.html
問合　大阪広域水道企業団経営管理部
　　総務課人事グループ
　　Tel.06-6944-6046

第15回堺市景観賞募集

堺市内の優れた景観を有する建築物等の所有者や良好な景観形成に貢献する活動を行っている方などを表彰します。
推薦・応募期間　7月1日（月）～8月30日（金）必着
推薦・応募方法
　所定の応募用紙（堺市ホームページなど）に必要事項を記入の上、郵送、電子メールまたは持参により堺市都市計画部都市景観室「堺市景観賞」担当まで。
問合・送付先　堺市建築都市局都市計画部
　　都市景観室「堺市景観賞」担当
　　〒590-0078 堺市堺区南瓦町3-1
　　Tel.072-228-7432
　　mail:tokan@city.sakai.lg.jp
HP:http://www.city.sakai.lg.jp/shisei/toshi/toshikeikan/15keikansho25.html

Others
その他のお知らせ

第2回タマホームデザインコンペティション2013

これまで当たり前だと思われていることを一つ一つ点検しながら、良い部分は残し、変えるべき部分は変える。そうした構築的な提案が寄せられることを今回は期待しています。
主催　タマホーム株式会社
募集テーマ　住まいの新しいベーシック
登録募集期間　7月1日（月）～ 9月20日（金）
作品提出締切日　9月27日（金）当日消印有効
公開審査会 表彰式　11月中旬頃予定
表彰　最優秀賞 1点：100万円&スペインサグラダ・ファミリア見学ツアー（※1名様）
　　優秀賞 2点：各50万円
　　入　選 5点：各10万円
　　タマホーム賞 1点：10万円
　　佳　作 8点：各5万円
詳細はHPをご覧ください。
http://www.kenchiku.co.jp/tamahome/
登録問合　タマホームデザインコンペティション
　　事務局（株）建報社内
　　Tel.03-3818-1961
　　E-mail info@kenchiku.co.jp

木造トラス勉強会

木造トラス勉強会では「伝統構法」と「木造トラス」の勉強会を開催しています。9月の勉強会では、西宮建築指導課の西原誠助氏と近畿プレカット（株）の風明宏氏を招き、「つよい木造住宅のつくりかた」をテーマとします。
主催　木造トラス研究所　㈱合掌
日時　9月7日（土）　10:00～16:30
会場　西宮市勤労会館
　　西宮市松原町2-37
参加費　1,500円（木造トラス研究会会員は1,200円）別途資料代1,500円必要
定員　26名
当日は実習のために赤鉛筆と蛍光ペン（黄・赤・橙・緑・青）をお持ちください。
申込・問合　㈱合掌　原田量治
　　Tel・Fax.0742-36-2929
　　E-mail truss@hera.eonet.ne.jp
http://www.eonet.ne.jp/~truss/NewFiles/study.html

大振幅地震動と建築物の耐震性評価―巨大海溝型地震・内陸地震に備えて（大阪開催）

予測される大振幅地震動とそれに対する建築物の耐震性評価を検討した刊行物の発刊にあわせて講習会を開催します。
日時　9月11日（水）　10:00～17:00
会場　大阪科学技術センター
　　大阪市西区靭本町1-8-4
定員　130名
参加費　大阪士会会員13,000円（テキスト代含）
テキスト　大振幅地震動と建築物の耐震性評価―巨大海溝型地震・内陸地震に備えて―
申込・問合　日本建築学会近畿支部
　　Tel.06-6443-0538
http://www.aij.or.jp/

耐震改修促進法のための既存鉄骨造建築物の耐震診断および耐震改修指針講習会（大阪開催）

日本建築防災協会では、「2011年改訂版耐震改修促進法のための既存鉄骨造建築物の耐震診断および耐震改修指針・同解説」と同会及び（一社）日本鋼構造協会発行の「2013年改訂版既存鉄骨造建築物の耐震改修施工マニュアル」をテキストに耐震診断・耐震改修の推進のための講習会を開催します。
日時　9月30日（月）～10月1日（火）
第1日目 9/30　10:20～16:10
第2日目 10/1　10:00～16:00
　　（16:00～受講修了証交付）
会場　大阪YMCA会館2階ホール
　　大阪市西区土佐堀1-5-6
定員　250名
受講料　21,000円（テキスト代別途）
申込・問合　（一財）日本建築防災協会
　　Tel.03-5512-6451
http://www.kenchiku-bosai.or.jp/workshop/index.html

京都国立近代美術館
泥象　鈴木治の世界

本展は現代陶芸に大きな足跡を残した鈴木治（1926－2001）の展覧会です。
会期　開催中～8月25日（日）
時間　9:30～17:00
　　（金曜20時まで。入館は閉館30分前まで）
休館日　月曜日
観覧料　一般1,200円
会場　京都国立近代美術館
　　京都市左京区岡崎円勝寺町
問合　京都国立近代美術館
　　Tel.075-761-4111
http://www.momak.go.jp

大阪市立東洋陶磁美術館
企画展「白樗廬（はくとうろ）コレクション－中国古陶磁清玩」

奈良県在住の収集家・卯里欣侍氏より寄贈を受けたコレクションの中核をなす中国陶磁から約90点の展示です。
会期　8月10日（土）～11月4日（月）
時間　9:30～17:00
　　（入館は閉館30分前まで）
休館日　月曜日（9/16、9/23、10/14、11/4は開館）、9/17、9/24、10/15
観覧料　600円
展示点数　約90点
会場　大阪市立東洋陶磁美術館
　　大阪市北区中之島1-1-26
問合　大阪市立東洋陶磁美術館
　　Tel.06-6223-0055
http://www.moco.or.jp

鈴木治　泥像（1965年）
京都国立近代美術館蔵

彩陶双耳壺　大阪市立東洋陶磁美術館蔵
（卯里欣侍氏寄贈）

Design Your Energy 夢ある明日を
大阪ガス

広がってゆく、スマートハウス。
そこに、大阪ガスの「ダブル発電」。

家庭用燃料電池「エネファーム」と太陽光発電を組み合わせた「ダブル発電」。
昼も夜も雨の日も、24時間、365日発電でき、自宅で使う電気の
約80%*をまかなえる「ダブル発電」が、
家を、暮らしを、どんどんスマートにしてゆきます。

ガスで実現するスマートハウス　ガ、スマート!

※大阪ガス調べ

お問い合わせ先：大阪ガス株式会社 リビング事業部 大阪リビング営業部 都市開発チーム　〒550-0023 大阪市西区千代崎3丁目南2-37
TEL：06-6586-3241　FAX：06-6586-3259　ホームページ：http://www.osakagas.co.jp

理事会報告

文責　本会事務局

日時　七月十七日(水)十六時～十七時三十分
場所　本会会議室
出席　理事四二名、監事二名

(1)会計報告
六月末までの当期経常増減額は、収益六五、八二二、四九九円、費用二九、二三三、九〇四円、増減三二六、六八八、五九五円を報告して承認された。

(2)寄附について
公益社団法人は寄附金について税額控除制度が適用される対象法人となることができ、本会も特定公益増進法人となって、本会への寄附については税制優遇措置が適用される趣旨を公表し寄附を募る。寄附金等取扱規程並びに周知用の寄附のお願い文について承認された。

(3)派遣・推薦規程について
前回理事会で指摘された本会活動の派遣業務と外部組織等への協力活動とを区別する修正をして同規程を承認した。

(4)建築士会CPD規則について
認定手数料など改定すべき必要性があり案文を提示したが、一部不備な箇所もあり再提示して承認を求めることとした。

(5)役員の地域支援分担について
地域の社会貢献活動の活性化を図るために、役員が地域運営委員等と協力して支援を行うことを承認した。

(6)連合会会長表彰について
連合会の承認を受けて、石貫方子、山地康夫、今井俊夫、萬川幹夫の四氏の受章の決定を報告した。

(7)インターンシップについて
在阪四団体で共同するインターンシップにおいて、受入事業所と希望学生とのマッチングが行われた。本会からは二五事業所で受入人数は三名、希望学生数二名の協力に対して感謝の辞があった。四団体計は四〇事業所で受入人数は九一名、希望学生数四七名を報告した。

建築相談

建築士の見たトラブル事例（十二）
マンション維持管理相談チーム

文　橋本頼幸

今月の「建築相談」コーナーは、相談員の津村泰夫様に話題提供をしていただきました。

建築士会では、分譲マンションの管理組合からの相談を受けており、マンションの維持管理に関する基礎的な技術や知識を身につけるための勉強会を行っています。今月は津村様から建築士会内での活動と大規模修繕（リフォーム）トラブルについてご紹介いただきました。

マンション維持管理相談チームの活動

東京カンテイによりますと、大阪府内の全世帯数に占める分譲マンション戸数の割合を示す「マンション化率」は二〇一二年の一七・七六%から〇・二八ポイント拡大し一七・九四%となり、兵庫県を抜いて全国第3位となっています。

相談分科会では一般の方からの電話相談、面接相談と現地相談に対応しております。近年ではマンションに関する相談が多いことから、三年前から「マンション維持管理研究会」というグループを作り勉強会や相談対応をおこなっておりました。建築士会の公益社団法人化を機に名称を「マンション維持管理相談チーム」とし、新たな出発をしております。

相談は毎週木曜日の午後に管理組合役員などとの面接相談を行い、マンションの維持管理に関するあらゆる相談に対応できるよう取り組んでいます。面接相談には予約が必要です。

また、相談チームでは勉強会をおこなっております。本年度はマンションの劣化診断について、来年は修繕設計について、再来年は大規模修繕工事の監理について毎月一回を実施する予定です。マンションコンサルタントに取り組もうという建築士の方はぜひご参加ください。

大規模修繕（リフォーム）トラブル

相談分科会の各所相談に寄せられる相談の中でリフォームに関する相談がかなり多くなってきています。新築に関しては国の施策が行き届き、瑕疵担保履行法や建築確認の完成検査率の向上など一定の法整備がなされたこともあり、典型的な欠陥住宅のような相談は少なくなりました。それに対してリフォームは確認検査制度もなく、保証も任意のものしかありません。リフォームは新築に比べると工事金額も低いことから、第三者の設計監理が入ることも少ないこともトラブルの一因かもしれません。

マンション大規模修繕も「リフォーム」の一種です。大規模修繕では、さすがに「契約書すらない」「図面や仕様書がない」ということはないでしょうが一式で書かれた見積書や請求書があるのみというケースは時折見かけます。少し規模の大きなマンションになると外壁塗装や防水工事などのごく一般的な大規模修繕だけでも数千万になることが多く、大きな金額が動くことになります。

衣類を買ったり電気製品を買ったりするときには慎重に厳選して購入する方が、大規模修繕工事になると管理組合や特定の役員がやっていることと感じて無関心になってしまいがちです。あとで内容のわからない追加費用を請求されたり、仕上がりが悪かったりと、一般のリフォームと同じような相談が寄せられています。

マンション維持管理相談チームの勉強会は、原則第二木曜日の午後六時半から、建築士会会議室で行っております。ご興味のある方は、事務局もしくは代表の津村様（住環境設計）にお問い合わせ下さい。

大阪ホンマもん解説

写真　田籠哲也　文　牧野隆義

夏に行われる大阪の祭りといえば天神祭りなどが有名だが、ことさら花火の迫力から言えば、この富田林市で行われる通称PL花火（教祖祭PL花火芸術）が夏の風物詩として定着している。花火は一九五三年から始まり、現在は二万発もの花火が打ち上がる。その花火の背景に聳え立つ白亜の塔が、「PL教団大平和祈念塔」だ。

教団におけるシンボルであるこの建物の正式名称は「超宗派万国戦争犠牲者慰霊大平和祈念塔」で、万国の戦没者への慰霊と鎮魂を行う慰霊塔としての役割と、平和への祈念という役割を兼ねている。

設計監理は日建設計で、東急建設が施工した。塔の高さは一八〇mに及び、高層展望台からは大阪市内まで見渡すことが出来る。竣工は昭和四五年（一九七〇年）で年代的には日本万国博覧会と重なる。

今なお、彫刻的でその独創的な風貌に圧倒される。通天閣がそうであるように、塔が風景の一部となっている。憲法改正も叫ばれているが、心静かに立止まり、先ずは皆で万国の平和を祈念したい。

建築人　8
2013

監修　公益社団法人大阪府建築士会
　　建築情報委員会
編集　建築情報委員会『建築人』編集部
　　編集人代表　米井　寛
　　編集人　荒木公樹　飯田英二
　　筑波幸一郎　中江　哲
　　橋本頼幸　牧野隆義
　　事務局　山本茂樹　母倉政美
　　印刷　中和印刷紙器株式会社

摂津市立コミュニティプラザ・摂津市立保健センター・J.S.B 摂津エコセンタービル

計画地は「南千里丘周辺地区地区計画」の区域内に位置し、阪急摂津市駅のロータリーに面している。敷地の東側には、境川のせせらぎに沿って緑あふれる遊歩道があり、周辺は土地区画整理事業等により実現した景観や環境に配慮した良好な市街地が構成されている。

自然との調和や圧迫感を抑える為、低層で流線型のフォルムとし、地上から3階へと繋がるなだらかな屋上庭園や風の通り抜けに配慮した自由通路、多目的広場を設けた。

施設は「健康、福祉、文化、教育、環境」を中心的な機能とし、産・官・学・市民が連携しながら低炭素型社会の実現を目指したまちづくりの核となる。多くの市民が利用する公共施設となる為、市民の方々との自由な意見交換の場として『南千里丘まちづくり懇談会』を開催。また、低炭素型のまちづくりの企画・設計・施工等の各プロセスにおいて指導、助言を行う『コミッショニング委員会』を設置し、ヒートアイランドの抑制や自然エネルギー利用、省エネ機器を採用することにより環境に配慮した計画としている。

エネルギー消費（CO2排出）情報を把握する為、エネルギーモニタリングシステムを導入し持続可能な形としてCO2の削減に取り組む。

第32回大阪都市景観建築賞入賞作品

■建物データ

設　　計：株式会社 都市建
施　　工：株式会社 淺沼組
建築位置：大阪府摂津市南千里丘 5-35、5-30、5-25
用　　途：コミュニティプラザ 保健センター・事務所
規　　模：地下1階・地上3階
構　　造：S造（一部RC造）
敷地面積：6,887.00㎡
建築面積：4,399.61㎡
延床面積：8,901.67㎡

建築人 No.590　平成25年8月1日発行　発行人：会長／岡本森廣　発行所：公益社団法人大阪府建築士会　〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F　tel.06-6947-1961